

いきいき元気GO!

広島県医療労働組合連合会
女性部ニュース

NO, 118

2011,8,8 発行

～核廃絶、原発ゼロの思いあふれる～

第57回日本母親大会大成功!

「核兵器はいらない」「戦争はいらない」と母親・女性の願いを原点に始まった日本母親大会が7月30-31日、第57回目にして初めて被爆地ヒロシマで開催され、初日の全体会に8,500人、2日目の分科会やシンポジウムに7,500人が参加しました。



広島県総合体育館で開かれた初日全体会は、東日本大震災、福島第一原発事故と被災者支援の草の根の運動、放射能汚染から子供たちを守るうの聲が広がる中での大会となり、被災地の宮城から80人、岩手から70人、福島からも100人が参加しました。

記念講演は、反貧困ネットワーク事務局長の湯浅誠さんが講演。現役労働者の三割が非正規労働者で、未婚率も高く30代で49%。年収と結婚率の比例関係。また、今の日本は就職するのに「シュー活=就職活動家」そして結婚するのに「結婚活動家」そして生きるために「生活活動家」にならなくてはならない異常な生きづらい社会になっている。1人ひとりが大切にされる社会を「つくり」「求める」ことが大切だという事でした。

構成詩劇「核と世界の子供たち」は、白血病のため7歳で亡くなった被爆2世の少年が、ビキニ環礁の水爆実験や劣化ウラン弾などの被害に苦しむ世界の子供と対話する内容で、作者で被爆治療に取り組む医師丸屋博さんが核実験による放射能被害のな

い明るい未来を子供たちに、「広島やチェルノブイリの記憶を受け継いでほしい」と願い構成されたものです。

全国各地の運動の報告や交流では、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の被災者が相次ぎ発言しました。福島から幼い子を抱え参加した母親からの「福島の子供たちは、外で遊ぶこともできず、夏休みのプールもない。生活のため福島から避難することもできない。子供たちの将来の事を考えると夜も眠れない・・・放射能から子どもを守り、福島の地でくらしたい」という涙の訴えに、連帯の熱い拍手や声援がおくれノーモア・ヒロシマ!ノーモア・フクシマ!の思いが溢れました。



2日目の特別企画「原爆詩朗読」には、女優の吉永小百合さんが峠三吉の「序」などを朗読。「地震の多い日本では原子力発電所はなくしてほしい」と語り、地元の合唱団と平和への願いを込めた「折り鶴」を一緒に合唱しました。この吉永小百合さんの発言は新聞各紙が大きく取り上げました。



その他「原発震災」「食の安全・安心」には参加者が溢れ、「核兵器廃絶のために」「原爆碑めぐり」などでは被爆者が体験を語りました。

この大会に広島県医労連は300人の参加目標を立て各組織が地域実行委員会と一緒に呼びかけを広げ、要員を含め340人が集会成功に力を合わせました。これを今後の運動の力にしていきたいと思います。来年は新潟です!～みなさんお疲れ様でした～